

くわな IoT 推進ラボ協議会（グリーン IoT ラボ・桑名）分科会 議事録

<p>日時・場所</p>	<p>令和3年11月25日(木) 10:00～11:45 ※傍聴は市役所3階第2会議室内</p>
<p>出席者</p>	<p>(1) 出席会員 8名(7団体) NTN株式会社(自然エネルギー商品事業部) 技術部長 勝又 龍介 桑名商工会議所 総務課 係長 東岡 謙 桑名三重信用金庫 部長 益川 幸夫 中部電力パワーグリッド株式会社桑名営業所 契約サービス課課長 南 孝明 契約サービス課副長 林 滋人 百五銀行 桑名支店長 杉本 和 丸紅株式会社 中部支社 支社長補佐 清水 香菜 丸紅新電力株式会社 販売強化・新規事業部 部長 松田 明広</p> <p>(2) アドバイザー 1名 三重大学 地域イノベーション学研究科 教授 西村 訓弘</p> <p>(3) 市出席者 総務部長 松岡 孝幸 事務局 6名</p>
<p>会議次第</p>	<p>1 報告事項 ①取り組み状況報告 ②グリーンIoTラボ・桑名への提案状況</p> <p>2 議題 ①今後の取り組み(実施検討事業)について ②意見交換(ゼロカーボンシティに向けた取り組みについて)</p> <p>3 その他</p>
<p>概要 (主な意見)</p>	<p>1 報告事項 ①取り組み状況報告及び②グリーンIoTラボ・桑名への提案状況について、資料1に基づき事務局より説明。 【質疑応答】 ・①ふるさとCo-Leadプログラムについて、桑名市の中小企業の期待感はどうか。</p> <p>参加したいができない企業から情報提供してほしいという声が多い。デジタル化の体験は、企業にとってプラスとなるため、この事業で得られたノウハウ等を他の企業に波及させたい。</p> <p>課題の共有はWeb面談で既にできている。良い提案を頂いた場合は、金融機</p>

関という立場で協力したい。

- ・市内の企業の事例で、標準化を図るよう機械の部品交換をしていた製造ラインについて、IoT技術を導入することにより、各機械の状態を適切に把握し、製造効率を上げ、生産性の向上を実現した。これは現状でも効率良く生産できていると思っていた中小企業が、改善の余地を秘めている可能性があるという気づきであった。

ふるさとC o - L e a dプログラムにおいても、ありきたりのIoT技術で他の事例に倣ってデジタル化を図ろうとするのではなく、より詳細に企業の現状に即して、非効率となっている事象を探し出すことをデジタル人材に提案してもらえると良いかもしれない。当たり前に行っていたことが実は間違っていたという良い発見があることを期待する。

今回のふるさとC o - L e a dプログラムが中小企業間にとって良い刺激となり、良いアクションを起こすきっかけになればと思う。

- ・②多度山グリーン好循環創出事業について、何か意見等あるか。

トイレの老朽化に伴い、新たなトイレを設置するが、現行のトイレと同様のものを設置しても、課題解決とはならない。課題の内容を把握し、新たな技術を取り入れた循環型トイレを導入することで、将来的な同様の課題の予防策にもなると考えている。また、多度山の自然保全の一助にもなる。

多度山の麓にある駐車場の整備等も進めば、より地域活性化につながると考える。

- ・③市役所本庁舎への再生可能エネルギー導入について、何か意見等あるか。

太陽光に関して、再生可能エネルギーの特定卸売供給は初の取り組みである。また、地産地消で地元の公共施設に電気を供給することも初めてで、他の自治体からの問い合わせが多い。今後も地域に貢献できる策を模索していきたい。

- ・⑥再生可能エネルギーを活用して栽培されたトマトを市役所本庁舎地下の市民ラウンジで販売していただいているが、今後の展望等はあるか。

植物工場を事業化する目的ではなく、まずは自然エネルギーの循環で貢献していきたい。今回のトマト等の栽培はそのエネルギー活用における可能性の追求の一つと考えている。

2 議題

- ①今後の取り組み（実施検討事業）について

非公開にて審議

- ②意見交換（ゼロカーボンシティに向けた取り組みについて）

- ・本店の2つの建物に令和3年8月と10月に宮川水系の水力発電由来の再エネ電気を導入した。本店の電気は銀行全体の電気の約22%を占めており、年間1,360トンの二酸化炭素削減効果が見込まれている。また、お客様に対して提案しているものの一つにグリーン預金がある。これは資金用途を再生可能エネルギーに対する融資に限定し、例えば、風力や水力発電設備の建設や修繕等への投資を想定している。地銀では初めての取り組みで、プロジェクトの内容や二酸化炭素削減効果等をホームページで公表する。募集金額は30億円で、令和3年11月15日に予約を開始したが、わずか3日で完売した。

3日で完売とは、非常に驚いた。企業等の環境意識が高いことがうかがえる。

また、取り組みを公表して見える化するということも魅力の一つだろう。環境活動に貢献したい企業等がいる一方で、プレッシャーに感じている企業等も多いと思う。そのような企業や個人に対して後押しをしたい。それを桑名市というフィールドで実証していきたい。三重県が50億円のグリーンボンドを発行するという話もある。市単独で取り組むことは難しいため、民間、県と共に進めていきたい。

- ・電力会社としては、再生可能エネルギーの発電やグリーン電気の導入等を主に考えてしまうが、IoTを活用した市民への事業展開、市民サービス等の分野で、ヒト、モノの移動を減らすことで二酸化炭素の削減につなげられるような方法も考えていきたい。

- ・スマートメーターの普及率はどうか。

スマートメーターへの取り替えは、約7割まで進捗している状況。2023年3月末までに全数取り替える計画で全国の各電力会社が進めている。ただし、半導体不足により、先行き不透明な部分もある。通信機能付きのスマートメーターを取り付けることにより、それを活用したサービスやビッグデータの活用も検討していきたい。

- ・何をやるにしても、ヒトが肝となるが、後継者不足や人口流出等、人材不足が課題である。学生たちに地元企業の魅力を感じてもらえる機会を与えることにより、将来的な地元貢献が期待できる。

- ・大学のあるサークルでは、障害者施設へ行き、家庭教師として精神障害の子どもたちに勉強を教える活動の中で、子どもたちの生活状況やキャリア形成の課題解決について考えている。学生たちはこの活動等で子どもたちと接する中で、やりたいことが見出せない子どもたちが多いことに気づいた。また、同じようにやりたいことがない学生も多く、この活動は学生たちにとって、自分たちも世の中の役に立てるということを感じられる場となっている。

欧州諸国に比べると、日本は本気度が足りない。このような風潮によっても、学生たちは社会のおもしろさの無さにもがいているように感じるため、中小企業の新しいおもしろみのある取り組みを知ることで、学生たちの思いも変わるかもしれない。

社会を変えるような斬新な取り組みをしている経営者のところには、就職やインターンシップ等の希望者が多く集まる。桑名市もこれから取り組みを進めていく中で、子どもたちがわくわくするようなまちにするにはどうすればよいかを考えてみてはどうか。例えば「未来社会を考える子どもの会」というようなものを設けて、子どもたちがやる気になるような社会とはどういうものか、20年後の桑名市に住むならどんなまちにしたいかを子どもたち自身に描かせる。そのうえで子どもたちが市内の中小企業を回って、子どもたちから気づいたことを教えてもらう。それを達成していくために行政が優遇措置をする等、桑名市は先進的に取り組んでいるというイメージを対外的に作れるとよいと考える。

未来を担う若者たちにも桑名市、企業の前向きな取り組みを知ってもらうことも今後進めていけたらと思う。この会議で出された意見を踏まえて、事業を進めていきたい。民間提案も引き続き、広く募集していくため協力をお願いしたい。

3 その他

- ・ゼロカーボン市区町村協議会及びその提言書について、資料に基づき事務局より紹介。
- ・次回の分科会の開催について、令和4年3月下旬から4月上旬頃を予定と案内。

以 上